

北沢浮遊選鉱場

北沢浮遊選鉱場は、金の鉱石を選鉱する目的で当時建てられた最も先進的な建造跡のひとつで、佐渡島の近代鉱業の歴史を代表するものとなっています。19 世紀中頃までには、従来の鉱山技術を使っ
ての産出量が少なくなり、鉱業は衰退していきました。明治政府（1868 年発足）は、1869 年以降海
外の鉱山技術および技術を導入しました。1938 年に完成し、1952 年まで操業していた北沢浮遊選鉱
場は、近代技術の導入という点で重要な役割を果たしました。この浮遊選鉱場は、手作業による労働
の必要性を大幅に削減し、1 か月あたり 50,000 トンの鉱石を処理することが可能でした。その建物
は、今でも濁川の両側にありますが、段々と草木に覆われて廃墟となっています。主工場前の広い芝
地は、現在では屋外のバーチャル博物館となっており、佐渡島鉱業史の最終章における技術を称えて
います。